

戦前期における遊廓と 現代社会における労働を考える

—近代女性史と社会学のはざまを乗り越えて—



研究会の趣旨

近年、専門分野別に分断され研究テーマが個別具体的になる学問の「断片化」が進む傾向がある。そこで、本研究班は専門分化した研究領域を横断するような共通理念を探る。今回の研究会では、戦前期の遊廓で働く女性について研究しておられる山家悠平氏を招聘する。本研究班が山家氏を招聘する理由は、歴史学や女性学でおこなわれている最先端の議論の内容が、社会学で議論されている現代のジェンダーや労働の問題においてどのような差異が見られるのかを検証する。そして、これらの学問と社会学との間にある学問の壁をいかに乗り越え、現代の社会問題全般に通ずる共通理念を模索する。

招聘研究者：山家悠平 氏（大手前大学学習支援センター）

国会図書館や、全国各地の図書館にねむる戦前の新聞に目を通すうちに、遊廓のなかの女性たちによるストライキをはじめとするさまざまな抵抗にひきつけられる。その成果を今春『遊廓のストライキ』（共和国）として上梓。全国紙をはじめ多くの書評欄で話題に。京都在住のミュージシャンでもある。

コメンテーター：金 太宇 氏

（関西学院大学災害復興制度研究所）

日時：2015年11月21日(土)

-受付開始- 13:30~

14:00~17:00

於：関西学院大学社会学部棟 3F ※申し込み不要

先端社会研究所セミナールーム

※研究会後、懇親会を予定しています。

